

# NEWS PAPER

SUPER FORMULA 2021 — P.MU/CERUMO・INGING Race Report



@INTERVIEW

Sho TSUBOI #38

38号車 ドライバー 坪井 翔

## チームを 引っ張る立場

Sena SAKAGUCHI #39

39号車 ドライバー 阪口 晴南

Yuji TACHIKAWA

監督 立川 祐路

Today's Race Rd,6

## Suzuka Circuit

### 10.30SAT/31SUN

@Race Archive Rd.6 Twin Ring Motegi

# 霹靂の如く

へきれい

# 7

Vol.

@Race Archive

Rd.6 Twin Ring Motegi レースアーカイブ Round.6 ツインリンクもてぎ

予選 10月16日(土) 天候:くもりのち雨 コース状況:ドライ・ウェット

# 雨の日の如く

WET宣言の中Q1スタート (Aグループ) 9台、阪口からQ1がスタートした。ユースドタイヤでコンディションを確認したのち、ニュータイヤのスリックへ履き替え、残り2分51秒のところまで7号車が単独のスピンを喫し赤旗が呈示される。13時48分、残り3分で予選再開。計測4周目で1分31秒543をマーク。6番手でQ2へ進出した。(Bグループ) 坪井が出走。10台の攻撃。1分30秒536で5番手となり、2台揃ってQ2へ進出を果たした。

天候に翻弄されるQ2へ (Aグループ) 阪口は、スリックタイヤで計測4周目、1分32秒406で3番手となりQ3へ進出した。雨との戦いで厳しいコンディションの中、スリックタイヤのまま持ち堪えた。(Bグループ) 坪井は、ウェットタイヤを選択。1分42秒708で5番手。惜しくもQ3への進出はならなかった。

阪口Q3へ 今回もしっかりQ3へと残った阪口。7分間の攻撃は、レインタイヤを選択した。計測3周目で、1分37秒596.5番グリッドを獲得した。

決勝 10月17日(日) 天候:くもりのち晴れ コース状況:ウェット/ドライ 朝から小雨の降りしきるサーキット。午前のフリー走行時はとうとう本降りとなり、30分の走行でスピスが相次ぐ。38号車坪井も開始早々単独スピからフロントノーズを破損したが、ピットに戻りスペアに交換し走行を続けた。阪口5番手、坪井14番手で走行を終える。日中、気温は上がることなく見る見る下がって行き、決勝のスタート時には、14度と冬の気温まで下がった。

冬の気温、雨上がりの路面 騒乱の決勝へ サポートレースの間には時折強い雨脚も見られたが、その後雨も上がり14時45分フォーメーションラップ開始。路面は、まだ十分に雨を含んでいる状態だった為、2台はウェットタイヤを装着し決勝(35周最大70分)に挑んだ。5番手からスタートした阪口は、オープニングラップに1つポジションを上げ4位、8周目には、3号車をパスし3位となる。一方、9番手スタートの坪井は、1周目で7号車にパスされ10位となるが、7周目にポジションを奪い返し9位。9周目、3号車がピットに向かい1つポジションを上げ8位。10周目、4号車がスピンしコースアウト。それと同時にチームは阪口、坪井をピットへ向かわせた。11周目にはセーフティカー導入され、2台共スリックタイヤに交換し阪口5位、坪井11位でコース復帰。路面もだいぶ乾いて来た。14周目、レースが再開した。その周、坪井は3号車にパスされ12位。

荒れる天候 3度のSCに レース再開と同時に太陽が顔を出すも、路面はまだウェットタイヤに有利でステアアウトしたウェット勢3台がレースをリードした。しかし15周目にはレコードラインが乾き始める。5号車がピットへ向かい、阪口は4番手、坪井は11番手へ上がる。16周目ステアアウトしていたウェットタイヤの1号車、20号車がピットへ向かい、阪口2位、坪井9位へ。この周、12号車が単独スピクラッシュ、2度目のセーフティカーが導入された。20周目、レースリスタート。坪井は7号車との競り合いの中で、濡れた路面を走りグリップを失いスピンを喫した。また同時に1号車と20号車もクラッシュ、3度目のセーフティカーが導入された。ここで3台がリタイアとなった。

攻める阪口、今季2度目の2位表彰台獲得へ! 24周目リスタート。阪口は懸命にトップを追い続け、27周目トップの15号車に果敢に仕掛け並びかけるも完全にオーバーテイクするには至らず。しかし、コースに留まることが難しい路面コンディションの中、荒れたレースで、阪口は今季2度目の2位表彰台を獲得した。

# Victory 2nd!

朝から曇り空に見舞われた天候は、午前のフリー走行ではセッション後半に小雨が降りだした。フリーは、坪井11番手、阪口8番手。前回からセッティングを変更して持ち込んだマシンたち。順位こそ目立ってはいないが、2台ともクルマのフィーリングは良かった。朝の走行だけではセットを詰め切れなかったけれども、それぞれ得るものがあり予選を迎えた。



@INTERVIEW

阪口 晴南 39号車 ドライバー

## チームのみなさんの仕事もGOOD JOBでした!

ピットの指示が完璧で、スリックで送り出してくれた結果の2位でした。乗っている身としては、スリックはリスクだと思っていました。他のチームでも判断は分かれたと思うのですが、先を見越して換えてくれたので良かったです。勝てそうなチャンスがSFではなかなか無く難しいですが、前回の2位とは訳が違って、今回は勝てそうな2位でレース展開も良くしっかり走り切ったので嬉しいです。チームのみなさんの仕事も Good Job でした。ありがとうございました。次も頑張ります!

坪井 翔 38号車 ドライバー

## チームを引っ張る立場

序盤は天候が微妙だったので、乾いていく路面でウェットがどこまで持たせられるかというのが重要でした。タイヤの温め方がうまくいかず、ペースが上がらず、温まってからは良かったのでチャンスがあるかと思っていました。SCのタイミングでピットインしてスリックに換え、また頑張って温まるとまたSCという感じでした。SCあけは、7号車に煽られるほど自分が遅かったです。その7号車との競り合いでスピンをしてしまいました。ポイント圏内を走っていたのに、また完走率が低いのは残念です。チームを引っ張る立場なのでもっと頑張りたいと思います。

立川 祐路 チーム監督

## 難しい状況の中 頑張ってくれた

今日の決勝もレース前に雨が止み、スタートはウェットでしたが乾くという難しいシチュエーションでのレースでした。戦略もうまく行ったと思います。SC後、坪井がスピンしてレースを終えてしまったのは残念でしたね。阪口は、その分スタートから順調にいて、スリックにするタイミングもSCのタイミングで換えられて良かったと思います。難しいコンディションの中頑張ってくれた結果2度目の2位でした。ワンチャンス、トップに仕かけるタイミングもありました。惜しかったですが、次こそは優勝を目指したいですね。応援ありがとうございました。

# 最終戦、鈴鹿へ 勝利で締めくくれ

2台にとって明暗を分ける結果となってしまったが、2週間後に迫った鈴鹿ラウンドは、今季の最終戦となる。ここまで苦しい戦いの続いてきたシーズンを勝利で締めくくり、来シーズンの飛躍につながるようチーム一丸となって戦いに挑む。

Results table with columns for driver name, position, and status.